

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200259		
法人名	株式会社 ユニマツ リタイメント・コミュニティ		
事業所名	松戸グループホームそよ風		
所在地	千葉県松戸市馬橋530-2		
自己評価作成日	2020年10月23日	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月の全体会議での職員研修の充実を図っておりサービスの質向上を図っております。感染症予防対策の徹底、医療機関や市町村担当者とも日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組み、ご利用者様の身体的状況等を積極的に伝え、協力と信頼関係を築くように取り組んでおります。運営推進会議ではご利用者様、御家族様にも遠慮なく発言をできる環境を築いております。問題や課題、要望においても運営推進会議議事録に残し報告を行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	令和2年12月3日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. JR常磐線馬橋駅から徒歩10分の閑静な住宅街に立地した2階建てホームです。近くに公園、商店街、レストラン等があり、訪問、散歩に便利です。敷地は広く、駐車場や広い家庭菜園があり、サツマイモ、里芋、落下生堀りをしたり、季節の新鮮な収穫物が食卓を賑わし、利用者には大変喜ばれています。
 2. 職員は定着し、平均介護度1.9と軽度で平均年齢も80.7と若い利用者の状況に合わせ、思いに応えるサービス(コロナ禍の巣ごもり対策、散歩、芋堀り、歌、馴染みのDVD鑑賞、麻雀の相手、面会、暮らしぶり報告等)を実践し、多数の利用者の笑顔が見られる他、家族アンケートでも好評です。
 3. 本部指導によりデジタル化(各種データ集計やマニュアル)が進んでいます。又前回の外部評価で改善を奨められた事項(2件)を完全に解決しており、サービス向上に熱心に取り組んでいる施設です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の全体会議で理念の共有確認を実施しています。	地域密着を織り込んだ理念「笑顔は架け橋～」を各ユニットに掲げ、職員は月1回の全体会議で唱和し、日頃のサービスで既実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流ができるように職員は考え行動している。	自治会の行事(敬老会、盆踊り等)への参加、ボランティアの受け入れ、小学生との交流会を行ってきましたが、現在はコロナ禍の為実施出来ずにいます。只9月に地域包括支援センター主導のオレンジガーデニング運動に、花を植えて協力参加しました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括と連携して「認知症サポーター養成講座」を開催等しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしております。参加できなかったご家族様にも議事録内容を送付しております。	年6回、偶数月に地域包括支援センターと市担当(交互出席)、民生委員、地域住民、他施設管理者、利用者、家族、職員で開催しています。現在はコロナ禍の為、外部参加者からは事前に意見を聞き取って書類開催し、議事録を関係者に送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは日頃から連絡を密にとり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築くように取り組んでおります。運営推進会議にも参加。行政問い合わせの内容についてもすべて記録に残しております。	必要の都度市担当に報告、説明し、運営推進会議に交互に参加してくれる市・地域包括支援センターから情報や意見を貰い、運営に役立っています。行政関係機関からの介助に困難を伴う人の受入れ要請に応え、最近も2名受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っておりません。2か月に一回身体拘束廃止委員会を開催。(全体会議・地域運営推進会議も活用)職員研修も実施しております。	身体拘束適正化委員会を年6回開催し、職員研修も年2回実施して、職員への周知徹底を図っています。玄関は、昼間は職員が都度開錠をして、見守る様になっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の居室内や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の居室内や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止策として毎月の全体会議、研修も実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ不十分であると感じております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族には入居前の見学時に十分な説明を行い、契約時にも理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では利用者やご家族に意見や要望をはっきり発言できる環境を作っており、内容も議事録を作成し報告しております。	利用者からは日ごろ、家族からは訪問時、電話連絡時、運営推進会議時等に意見・要望を聞いて、運営に反映させています。面会受け入れが困難な現在も、条件付きながら(予約制で15分間のみ、マスク着用)面会を可能とし、1名にはラインで画像配信する等、家族の要望を運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員の面談や毎月の全体会議時に運営に関する職員の意見や提案を聴く機会を設け、反映させております。	センター長は、職員から日ごろ、月1回の職員会議時、年2回の個人面談で意見・要望を聞き、運営に反映させています。職員の殆どが定着しているため、全体的に職員管理が行き届いているように見受けられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な全職員面談を実施し職場環境・条件の整備向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月全体会議時に職員研修会の実施、社内での研修にも積極的に参加できる機会も設け、成長のサポートを実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所開催の運営推進会議、研修等に出席して同業者と交流する機会を作り、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安なこと、要望等に耳を傾け、本人の安心を確保するための関係づくりに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族が困っている事、、不安な事、要望等に耳を傾けながら関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用を含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人からの電話連絡、手紙の発送、面会、地域での自治会館での催し物(敬老会)への参加関係が途切れないよう支援に努めています。	コロナ禍のため、面会は前もって電話予約が必要とし、来訪時はマスク着用し、手の消毒をしっかりと行ったうえ、個室にて15分以内をめぐり限定しています。来られない人には、電話や日常の様子を写真等で月1回送付するなど、今までの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間が互いに支えあう環境づくり(配席の考慮や職員が間に入った声かけ)に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了後もこれまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを尊重して、それぞれの生活リズムに合わせてサービスをていきょうしています。	利用者や家族からの意向をケアマネジャーが聞き取り、今までの生活環境の把握に努めています。庭の菜園でサツマイモ・オクラ・花等を収穫したり、日常的に歌や体操等を取り入れ、コロナ禍による巣ごもり対策を含め個々に合わせて支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方を尊重したそれぞれの居室環境でサービス提供に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成しています。	現在は家族から電話で要望を聞き取り、職員の記入した申し送りノートを参考にしたり、定期的にカンファレンスを行い、医療関係者の意見を反映して介護計画を作成しています。変化時には随時見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを尊重した柔軟なサービス提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援しています。	内科医が月2回訪問診療に来ていて、他科受診が必要な時は、医師の紹介状により、原則家族が付き添っています。訪問診療医とは24時間対応がとられ、安心できる医療支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は情報や気づきを訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるよう、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいはそうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	入居時に重度化した場合の対応を利用者・家族に説明し、同意を得ています。重度化時は医師と家族が話し合い、関係者と支援に努め、今年も3名の看取りを行いました。職員へは毎年1回「看取り研修」を行い、研修報告を提出させています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員ではないが、定期的に職員研修他、応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を、すべての職員ではないが身につけており、地域との協力体制を築いております。	消防訓練は、自主訓練1回を実施し、消防署立ち会い訓練は、コロナ禍の為、立ち会う代わりに感染症予防実施の指示を受け、実践し報告しています。備蓄は水・食料5日分の他、災害用品(医療用品、カセットコンロ、懐中電灯等)も準備しています。	非常時持ち出し袋に利用者の処方箋写しを入れ、年1回は災害訓練(防災頭巾等を被って垂直避難)をする事、および、昨年県内で長期停電があったことを踏まえ、電源確保と安全な疎開先の検討が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを対応しており、定期的に研修も実施しております。	介助中にプライバシーを損ねないよう、本社からのセルフチェックシートによる意識付けをしたり、アイパッドの動画を活用した研修等を行っています。声掛けは「～さん」を原則とし、利用者の尊厳を守るよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるような声かけを職員はしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご家族との外出予定や天気の良い日には散歩等お客様の希望ニーズを伺い職員はできる限りの支援をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人、ご家族様に希望に沿い出来る限りのサービス提供に努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の下ごしらえや、配膳の準備、下膳、片付けなど行っています	食材は業者から毎日届いています。2～3名の利用者は野菜のひげを取ったり、配下膳等を手伝っています。最近では、誕生日の希望食等テイクアウトで注文したりしています。年2回嗜好調査を行い、寿司、刺身、ケーキ等を提供して利用者から喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取・水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの記録に残し職員間で申し送りを行い支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアまたはお声かけをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をしっかり残し、排泄間隔を職員は共有して排泄の自立に向けた支援を行っております	排泄表を参考にトイレ誘導をしています。利用者の4名がオムツで、他はリハパンツを使用し見守り支援をしています。夜間は必要な人には、ベッド下にセンサーを置く等、自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の申し送りを職員間で共有して飲食物の工夫や運動の働きかけなど、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中9時から17時頃の間で入浴希望を毎日とっています。できる限り個々の希望に沿った支援をしています。	入浴は週2回午前中(9時～11時)に行っています。個浴使用の為、希望者は毎日でも可能で、浴槽のお湯は都度入れ替えています。浴室に風景写真を貼ったり、入浴剤やマイシャンプー等で気分転換を図っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や休息時間は一人ひとりの生活習慣ペースを尊重しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の目的や副作用、用法や容量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リクリエーションでの楽しみごとや散歩での気分転換等の支援をしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域では敬老会等催し物、また近所の公園まで桜や紅葉の時期の散策の付き添い介助を行うなど積極的に外出の支援をしています。	天気が良ければ裏の公園まで、利用者3～4名が散歩に出かけています。利用者は、希望によりコンビニに買い物に行ったり、玄関前で外気浴や裏の家庭菜園で花を摘んだり、野菜を収穫し楽しんでます。健康管理の為、電動フットマシーンを導入し、コロナ禍での巣ごもり支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や散髪・買い物外出に応じて、お金を所持したり使えるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では、季節感のある装飾や掲示を採り入れて、季節感があり皆様一人ひとりが心地よく過ごせるように努めております。	リビング兼食堂は広く清潔で、利用者が快適に過ごせる様になっています。コロナ禍対策の為適時換気・掃除・消毒をする他、利用者の介護度が比較的軽度で年齢も若い事情を考慮し、巣ごもり対応を含め利用者の思いに応えるサービス(馴染みのDVD、歌、麻雀、芋掘り等)を行い、多数の笑顔が見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前の椅子やソファ、テーブルの配置検討や移動も行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れたベッド、カーペットや仏壇の配置等、本人が心地よく過ごせるよう努めております。	居室は、エアコン、クローゼット、洗面台が備え付けで、清潔で適度の広さもあり、利用者が居心地よく過ごせる様になっています。家族面会を居室で行っているため、マスク着用とドアノブ等の消毒に注意を払っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名札を付け自分の居室がわかるように支援したり、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫しています。		